



日本一の清流高津川
島根の最高峰安蔵寺山

島根県津和野町

左 鑑 っ て

左鑑の宝物、見つけに来んさいわーっ

宝探し!

左鑑には、生き字引きのような暮らしの知恵をもつ達人たちが今も現役で活躍中!



京村菊一さん 1928年生まれ

「昔は学校行くのに、菓草履はいてね、行きよったのよ。その山道を、今は夏の宿泊体験で来た子どもたちが2時間ぐらいかけて歩いてね。楽しそうにじとった。山の上に住んどるけるけえ、昔から自給自足で。田んぼぼして、畑して、山に入って椎茸作ったり、炭木を切ったり。今でも秋には炭を焼いてね、ナラの木を。ナラは火に強い、火を起しても消えんのよ。一番ええのはカシの木がええんじやかね。蜂(養蜂)は趣味でね。蜂がおりやなんか楽しみになって。鮎の網掛けも時季になったら毎晩のように行きよったんじや。」



平野カメヨさん 1936年生まれ

「春先には、花わさびを食べるんじや。わさびの白い花を漬物にしたり、白えにしたり。竹の子や山菜を炊いたりしてねえ。夏は鮎。左鑑の鮎は美味しくて、昔から言われよったけえ。冬になつたら、いのししと大根を炊いて、いのししの肉はねえ、大根に合うんよ。冬になると身が締まって、油がのって美味しい。私の主人も猟師を十数年しとった。料理ははとんど、お母さんがするのを見よう見まねで覚えて。昔の一番のごちそうの主役は、羊羹。今も小豆を炊いて作るんよ。昔はお祭りのときは、羊羹や蒲鉾がごちそうだったねえ。」

制作 左鑑の将来を考える会
〒699-5202 島根県鹿足郡津和野町左鑑1480
☎ 0856-76-0216
http://www.sun-net.jp/~sabumi/

発行日 2012年11月
取材・編集 高野清華
撮影・デザイン 大下志穂
写真提供 藤井宏



左鑑への道

- 石見空港/益田市街から車で約1時間(国道9号線~国道187号線)
- 中国自動車道六日市ICから車で約50分(国道187号線)
- JR益田駅からバスで約50分(新左鑑橋で下車 1日3便)
- JR日原駅からバスで約20分(新左鑑橋で下車 1日3便)



左鑑は、島根県西部・津和野町内に位置する人口約300人の地域です。豊かな森と水に育まれる風土には、オンリーワンの魅力がたくさん! 県内最高峰の安蔵寺山(1263m)の麓に広がり、清流日本一の高津川が流れています。

また、昔から団結力があり地元を愛する人びとのあたたかさも天下一品。世代を超えて受け継がれる石見神楽は、まさに必見。

平家伝説ゆかりの地でもあります。

左鑑って どんなどころ?



四季折々のイベント

1月	元旦祭	9月中旬	左鑑小学校地区民運動会
4月下旬	潮山八幡宮 春の大祭	10月上旬	「祭りだよ! 左鑑に集合!」
6月下旬	ホタル観賞会	11月下旬	潮山八幡宮 秋の大祭
8月上旬	夏休みの宿泊体験		公民館祭り

地域の取り組み

さぶみっこ全員集合!

左鑑ならではの地域のイベントが盛りだくさん。ちびっこから、おじいちゃんおばあちゃんまで、世代を越えてみ〜んな仲良し大活躍!



継がれゆく伝統

古くから神職により受け継がれてきた石見神楽。明治初期の「神職演舞禁止令」の際、左鑑湖山八幡宮宮司より民間へ六調子神楽が伝授・継承されました。その後、戦後の昭和20年10月に解散。現在は、昭和22年に浜田市日脚神楽社中より伝授された八調子神楽が、生き生きと舞い継がれています。

http://sabumikagura.web.fc2.com/

石見神楽左鑑社中



左鑑自治会長 藤井茂治さん

「左鑑には季節ごとに色んなイベントがあるけえねえ。賑やかなのは、秋じゃねえ。運動会には、小さい集落じゃけえ、よそに出てるもんも帰省してきて、子どもからお年寄りまでみんなが集まる。最後の班対抗リレーが一番盛り上がるんじやあ。10月の秋祭りに、前夜祭に神楽を舞って、当日には八幡さま(湖山八幡宮)で拜んでからお神輿さんの行列を出して。神社に戻ってきたら、餅まき。数年前からは、左鑑オリジナルの映画ができたんじや。映画好きの郵便局長・大畑さんが『左鑑パラダイス』ちゅう映画を作ってくれたけえ。地域の子どもらが主演で、毎年楽しみにしてるんよ。」



Uターンターン 大歓迎!

大自然の中、生きるための昔からの知恵や技を教えたくれる、園宝級のおじいちゃん・おばあちゃんがある。こちにて、幅広い年齢の大家族的なつながりの中で助け合いながら子育てできるのが、ここ左鑑。左鑑と一緒に創ってらる左鑑を一緒に創っていきいたい! ここで子どもを育てたい! 農的生活をシフトしたい! そんな仲間を待っています。



